



令和元年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 9 号

令和2年1月8日

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 <意欲・健康・豊かな心>

新年にあたって

校長 富田 敦

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございました。本年も生徒一人ひとりの成長のために教職員一同全力で取り組んでまいります。変わらぬお力添えをお願いいたします。

「もし『自分のよいところ、好きなところを教えてください』と言われたら、何個言えますか？今の私はいくつも答えられると思いますが、中学校2年生までは答えられませんでした。」

この語りかけで始まる東條 七葉さん（3年）の主張は、令和元年度さいたま市青少年の主張大会で「さいたま市教育委員会教育長賞」に選出されました。東條さんは「自分のよいところを探そうとしても周りの人と自分を比べてしまうことで、よいところが見つからなかった」と言います。しかし、国連でスピーチをしたキム・ナムジュンさんの動画を見て考えが変わります。「『昨日失敗をしたかもしれませんが、そんな昨日の私もまた【自分】なのです。今の自分は、自身の欠点もこれまでの失敗も、全部含めて【自分】』なのです。』この言葉を聞いた私はすごく励まされました。周りとは比べずに、失敗も全部含めて自分である、それが私のよいところであると考えようになり、自分のよいところを見つけられることができました。」

さらに東條さんは続けます。「キム・ナムジュンさんの『私はあなたの声が聞きたいです。あなたが誰であるか、どこから来たのか、どんな色の肌をしているのか、どんな性別なのか、そんなことは関係ありません。私はあなたの話が聞きたいのです。』これを聞いて励まされた思いをもって話したい。」と考えるようになりました。そして、「今の私は自分のよいところ、好きなところを自信をもって話すことができます。周りの目を気にしないで自分の考えを話すことができます。考えは人それぞれですが、私は本当の自分を相手に話すことが大切だと思っています。」と発表を締めくくりました。

東條さんの発表について、審査員の吉野 寿一先生（市教育研究会国語専門部長・岩槻小学校長）は講評の中で次のように述べています。「一筋の光明が人生の救いとなることがあります。東條さんにとって、偶然出会ったキム・ナムジュンさんのスピーチがまさにそれでした。「言葉の力」を実感できる体験だったと思います。東條さんは、キム・ナムジュンさんのスピーチを通して、なによりも自分自身を大切にしていこうということを、そしてそれが、相手を尊敬することにもつながることを感じました。これからも、自分を大切に、自信をもって様々なことに取り組んでください。」

さて、令和2年「今年の抱負」です。「令和2年の抱負」を科学部の部長 神原 航輝くんはこう話しています。「令和元年度の研究は県優秀賞でしたが、全国大会へは行けませんでした。選評では『一つ一つの実験をつぎはぎした印象を受けた』とあったので、今度はテーマを深く掘り下げていこうと考えています。科学部では、ビオトープきれいにするためにはどうしたらよいのか、自然豊かにするためにはどうしたらよいのかをテーマとした研究を何年も継続しています。この研究をきっかけとして日本や地球の環境を改善していきたいという希望があります。今年全国で発表する研究をしたいと思っています。」

身近にあるビオトープの研究から地球の環境改善へとつなげていきたいとは、若者らしい夢があつて大変頼もしいと思います。このような考えをもつ中学生が土呂中学校にあることを誇りに思います。

最後にお詫びです。「見沼のほとり」第7号に「土呂中学校25回目の開校記念日」と書きましたが「24回目」の誤りでした。令和2年度の開校記念日が25回目の開校記念日です。